

# 花嫁対策事業について

福岡県漁協青壮年協議会 福岡 粕屋支部  
福岡市漁協青壮年部 戸 田 利 則

## 1. 地域および漁業の概要

福岡粕屋地区は、福岡市とこれに隣接する新宮町の1市1町からなり、全国でも有数の水揚げを誇る産地市場と、人口120万人を越える大消費地を有している。

当該地区には、平成2年に2漁協が合併してできた新宮相島漁協と、平成4年に12漁協の大型合併が実現した福岡市漁協、それに箱崎漁協の3組合がある。

3組合を合計した平成6年度の組合員数は1,330名、総漁獲量は6,900トン、総水揚げ額は52億円に達している。主な漁業は、玄界灘での吾智網、刺し網、一本釣、博多湾内での小型底曳網等の漁船漁業が主体となっており、タイ、ヒラメ、クルマエビ等を漁獲している。

## 2. 研究グループの組織と運営

福岡粕屋支部には、約30年間の活動実績がある。この間、様々な養殖・漁撈技術の導入試験、海洋レジャーへの対応等をテーマにした研修会、親睦スポーツ大会、漁場清掃事業等々に取り組んできた。

現在は、福岡市漁協の合併を契機に組織の拡充と事業・活動の強化を図っているところであり、福岡市および新宮相島の2漁協の青壮年部・216名の部員で構成している。

## 3. 活動課題選定の動機

支部結成から20年を迎えようとしていた昭和60年当時、部員の親睦を深めるためのスポーツ大会と、全国各地の先進事例を学んで、地元に戻元する先進地視察が支部の2大事業だった。また、各部の部長で構成する委員会を年6回ほど開催しており、事業の運営から青壮年活動、漁協・漁村の活性化等について協議していた。

この委員会において、部員の花嫁不足が離島で深刻な状況であるとの報告がなされたが、それは離島のみの問題に止まらず、どこも一様に深刻な状況であることが改めて浮き彫りになった。しかし、その対処について積極的に取り組んでいるところはなく、どの青壮年部もどうしてよいか分からない状態であった。漁業後継者の花嫁不足が深刻化しているのは、後継者の減少に拍車をかけることになる。

そこで、これについて、支部の一大事業として取り組むこととなった。

## 4. 実践活動の状況および成果

支部としての取り組みは別表に示すとおりである。まず、基本的な方向性として、女性に「漁師、海、魚、漁村といった漁業全般について肌で感じてもらう」ということを決め

た。これは、昭和60年の第1回目の取り組みから現在まで変わることなく事業に生かされている。

### (1) 昭和60、61年

昭和60年は、海釣公園での魚釣大会を企画し、土産にブリ、イリコを準備したところ予想を超える女性からの応募があった。魚釣りは、女性に釣り方の指導をすることで、会話が進むことを期待して取り入れたものである。また、実際に漁村の中を見せ、自慢の魚料理も食べてもらった。

61年も同様の企画を行ったが、結婚を真剣に考えている女性に参加してもらうため、結婚情報会社を使った。

初年とこの年の2年間で、1組ずつ、計2組の結婚が決まった。

### (2) 平成2～4年

平成2年には、共水連福岡県事務所を始めとする系統団体の支援で「福岡県漁業後継者育成対策協議会」が設立され、県下の独身漁業者を一斉に集めての事業が行われるようになった。

当支部では、後継者育対協の事業に参加した女性を主対象とした事業を計画し、今回は土産で女性を集めるのではなく、事業の内容で女性を集める方向で検討した。そこで、新しい漁業のあり方を求めて漁業者が創った「(株)能古マリン観光」に協力をお願いし、快諾していただいた。豪華クルーザーでのクルージングを目玉にして、クルージング途中での小型底曳網操業の見学、また、その獲れたばかりの魚を使っての料理講習に海鮮バーベキューと、参加女性に海での生活を十分に堪能してもらった。

その後、平成3年と4年も同様の企画で実施したが、クルーザーが1艇しか使えなくなり、男性参加者は漁船でクルーザーの後を追いかけるしかなく、改善が強く求められた。

また、4年からは、県費の補助金がいただけるようになったことから、内容の一層の充実を図ったが、思うような結果は得られなかった。

### (3) 平成5、6年

これらを踏まえて、5年の事業を始めるに当たっては、事業そのものの進め方を刷新し、実行委員制度を設けた。従来は、各単協部長で構成している委員会が事業全般を運営していたが、参加者の意見を事業に直接反映させることと、参加者の自覚を促して、より積極的な行動がとられるよう、参加者の代表による実行委員での運営を始めた。

実行委員の計画は、「経費をかけてでも広く女性を集め、交流・会話に重点を置いた設定にし、参加男性で補いきれない経費については、女性にも負担してもらい、このことで女性の能動的な参加を促す。ただし、女性から参加費を徴収するに当たっては、参加男性は招待者としてふさわしい行動をとる」というものである。

そして、①参加負担金の大幅な引上げと、女性参加者からの参加費徴収②大型クルーザーの備船③一般情報誌への有料広告④時間の短縮⑤手作りの魚料理⑥男性のスーツ姿での参加、等といった形での実施となった。

その結果、参加女性を抽選で選ぶほどの応募があり、交流も大いに盛り上がった。

これを受けて平成6年も同様の取り組みで行った。

この結果、平成5年に2組の結婚が決まり、昭和60年、61年の2組と合わせて4組の結婚が決まった。これは、予想外のすばらしい成果であった。

また、これらの事業を重ねるごとに、参加男性の女性に対する態度やマナーが向上し、日常生活における社交性が高まるとともに、青年漁業者のイメージアップに大きく貢献できたと思っている。

## 5. 今後の課題

漁業青年は、他の職業の男性に較べて女性と接する機会に乏しい。これを少しでも補うために、県内各地で同様な事業が行われるようになったが、さらに参加女性からのアンケートを生かして、より良い形での交流事業を常に追求していきたいと考えている。

結婚となれば、最後は本人同志の問題となると思うが、漁村の閉鎖性に戸惑いを感じる参加女性の声をアンケートで見た。これには、漁村からの情報の発信や、外から見たときの温かい漁村の雰囲気作り等、漁村が一体となって嫁の受け入れ体制の整備について真剣に検討することが必要だと考える。

## 福岡粕屋支部における花嫁対策事業

開催日	参加人数	内 容	費 用 (千円)	備 考
昭和60年 12月1日	(男) 50 (女) 100	海釣り公園で魚釣り大会 いりこ加工場見学 魚料理講習 昼食会	土 産 393 バ ス 100 食 事 167 他 92 計 752	
昭和61年 10月26日	(男) 25 (女) 25	海釣り公園で魚釣り大会 レクリエーション 昼食会	土 産 20 食 事 93 他 42 計 155	<協 賛> 結婚情報会社
平成 2年 10月13日	(男) 31 (女) 31	博多湾内クルージング 小型底曳網見学 魚料理講習 海鮮バーベキュー レクリエーション(のこのぼーろ) サンセットクルージング	食事・備船 342 レクリエーション 99 土 産 92 他 22 計 555	<協 賛> (株)能古マリーン観光 クルーザー(35人乗) 2 艇
平成 3年 10月26日	(男) 22 (女) 21	博多湾内クルージング 小型底曳網見学 魚料理講習 海鮮バーベキュー レクリエーション(のこのぼーろ) サンセットクルージング	食事・備船 277 レクリエーション 65 土 産 39 他 45 計 426	<協 賛> (株)能古マリーン観光 クルーザー(35人乗) 1 艇
平成 4年 10月31日	(男) 26 (女) 26	博多湾内クルージング 小型底曳網見学 魚料理講習 海鮮バーベキュー レクリエーション(のこのぼーろ) サンセットクルージング	食事・備船 518 レクリエーション 78 土 産 66 他 92 計 754	<協 賛> (株)能古マリーン観光 クルーザー(35人乗) 1 艇
平成 5年 10月16日	(男) 50 (女) 91	博多湾内サンセットクルージング 手作りのお魚料理パーティー 自作ビデオ(漁業)上映	備 船 682 飲 物 188 広 告 133 他 38 計 1,041	実行委員制度 大型クルーザー(345人乗) 女性から参加費徴収 参加男性のスーツ着用 漁業等に関するパンフ
平成 6年 10月15日	(男) 39 (女) 60	博多湾内サンセットクルージング 手作りのお魚料理パーティー	備 船 654 飲 物 166 広 告 92 他 51 計 963	実行委員制度 大型クルーザー(345人乗) 女性から参加費徴収 参加男性のスーツ着用